

県内商工会の地域貢献事業紹介

かづの商工会(県北地区)

事業名 出逢って つながって 強くなる「かづの産業見合市2013を開催」

1 事業の内容

本年度かづの商工会では、これまで鹿角市が主体となって実施してきた「かづの産業見合市」を本会が事務局となり実行委員会を組織して開催します。

本事業は、鹿角地域の事業者間のマッチングによる新たな商品(技術)の開発や強化を図る「異業種交流の場」とビジネスチャンスの「商談会の場」として開催し今年で3年目を迎えます。

この実績を踏まえつつ、本年度は見合市をステップアップした「マーケティングの場」として活用できるよう「テスト販売」を可能とし、更に鹿角地域の産業をPRするためにAAB秋田朝日放送より後援をうけ同局の情報番組の料理コーナーの料理研究家による鹿角食材を使った「調理実演」など、新たな取り組みを展開いたします。

また、これまで300名を超える方々から来場していただいておりますが、意識的にこの場を視察の場として提供し、鹿角地域にとどまらずに商工会や同業者等からも来場していただき、幅広い産業間連携を促進していくこととしております。

2 事業の効果

見合市の一番の趣旨は「異業種間連携による付加価値の創出」としてはいますが、現実としてはバイヤーとの商談からの販路拡大や、来場者からの生の意見を聞けるマーケティングの場としても大きな効果が期待されており、8割以上の出展者が、次回も出展を検討したいという意見が多くあります。

また、個別商談会においても、次回も参加したいとの回答が5割以上となり、見合市を通じて直接的な売上増加や利益向上にも結び付いており、連携や商談の根本にある「自社の強みのPR」するためのプレゼン能力向上につなげ、更なる鹿角地域の産業の発展と地域の活性化に寄与できればと考えております。



男鹿市商工会(中央地区)

事業名 商店街賑わい事業 海フェスタ・DCおもてなし事業

1 事業の内容

商業部会は会員企業の利益創出と地域の賑わいづくりを目的に商工会館(オガルベ)1階フロアの無料貸し出しを実施しました。また「あおぞら火曜市」はオガルベ駐車場を出店希望者に無料開放して地場産品を販売してもらっています。

観光サービス部会は海フェスタや秋田DCなどの大型観光イベント開催を男鹿のPRと来客者増加のチャンスと捉えました。お客さまには今回で終わることなくリピーター客になってもらうよう地域全体で「おもてなし」の心を表すため、市内の主な所に「ようこそ男鹿へ」の幟旗150本を設置しました。



「なまはげ」がお出迎え



オガルベ1階の物販コーナー

2 事業の効果

オガルベ1階の物販コーナーは海フェスタ来場者や夏期の観光客、帰省客の土産品販売所と休憩所として喜ばれました。あおぞら火曜市は平成19年から継続している事業です。地場産の野菜・果物・山菜・男鹿産の魚介類・海藻・加工食品を新鮮で多様な品揃えで提供し、地元の買い物弱者にとって欠かせない市場になっています。これにより「地産地消」運動にも貢献しました。他に出店者が生産者の立場から商工業者へ転身するきっかけとなり、意欲的に販路を拡大するようになりました。今年はオガルベ物販コーナーとあおぞら火曜市は相乗効果をつくりだし、賑わい作りに貢献しました。海フェスタに合わせ工業部会ではOGAマリンパークや鶴ノ崎海岸などを数回に渡りクリーンアップを実施しました。多くの事業主と従業員の他、地域団体からも参加協力をいただき、環境美化で「おもてなし」の心を示しました。

仙北市商工会(県南地区)

事業名 産業連携事業 仙北市の観光と物産展「山の楽市」

1 事業の内容

相鉄線二俣川駅(横浜市)で11月14日から3日間に開催する「山の楽市」は、今年で19回目。相模鉄道が田沢湖-横浜間に高速夜行バスを運行していた縁で、平成7年から開催。当初は旧田沢湖町が主催し、平成19年からは商工会へ移管。物産展は商工会が、観光PRは仙北市が、物産展の会場提供とPRは相模鉄道が担当。

市内事業所の他、農家からも出品。お菓子や漬物、工芸品に加え新米や野菜、山菜など仙北市の特産品が盛り沢山。沿線住民にはポスターやチラシ、お得なクーポンがついた折込みチラシ等でPR。各出展者は得意先や知人友人にDMを発送。千円以上お買い上げのお客さまには、温泉宿の宿泊券などが当たる抽選会を行って集客している。

2 事業の効果

事前の出店者会議では、食品表示講習や来場者から寄せられたアンケート結果を参考にして出展者の販売スキルを向上。期間中の売り上げは千数百万円に過ぎないが、長年出展している事業者は多くの得意客を持ち、年間を通じて注文が寄せられる。また、お客さんとは、物産や観光を通じた地域間交流も。

山の楽市は、「商工会と行政」「商工会と農家」「商工業者と農業者」「出展者と顧客」が連携して開催。出店を機に商工会に加入する農業者も多い。また、東日本大震災で大きな打撃を受けた仙北市の観光を支援しようと、相模鉄道では10両編成の電車内広告の総てを仙北市関連のポスターで埋め、2週間もの間無料で掲示した。

「山の楽市」は、組織や産業、地域間を超えた連携事業に育っている。

